

＜2月定例研究会の報告＞

平成31年2月16日（土）、当研究所で定例研究会を行いました。
今回の研究会のテーマは、文の構成です。
午後5時から研究授業、午後5時30分から研究協議を行いました。

研究授業者：高橋幸恵（つばき教育研究所スタッフ）
対象者：施設に通所している方
テーマ：文の構成
学習内容：「助詞2つを用いた文の構成の学習」

1. 学習経過

（1）文の構成に入るまでの学習

1）単語構成（平成25年5月～平成27年10月）

清音・濁音・半濁音・拗音・長音・拗長音・促音を含む単語構成の学習をおこなった。

2）動詞の概念形成の学習（平成25年3月～平成27年4月）

動作絵カード、動詞カード、実際の動作（身振りや手振り）を用いて、動きに着目させながら動詞の学習をおこなった。また、動作絵カードの分類の学習もおこなった。

3）なかまのことばの学習（平成25年11月～平成28年9月）

単語構成で学んだ単語を用いて、なかま集め（絵カードでの分類、名詞カードでの分類）をおこない、なかまのことば（果物、動物、文房具、調味料など）を学習した。

名詞の集まりからなかまのことばを、なかまのことばから複数の名詞を表出できるように学習をすすめた。

（2）助詞1つを用いた文の構成の学習（平成27年5月～平成30年3月）

単語カード、助詞カード、助詞1つの文の文構成板、動作絵カードを用いて学習をおこなった。具体物を用いて実際の動作もおこないながら、学習をすすめた。

- 動詞の意味をより明確にするために、名詞のみを変えた複数の文例を用いた。
- 名詞に対する動詞を対で覚え、動きに着目せずに動詞を答えることがないように、動詞のみを変えた複数の文例を用いた。
- 同じ文となる動作絵カードを複数枚用いて、文の意味をより明確にした。
- を、で、に、と、の、が、の助詞1つを用いた文の構成の学習をおこなった。学習時と宿題で適宜復習をおこなった。全ての助詞の学習終了後には、約4カ月かけて助詞1つを用いた文の総復習をおこなった。

（3）助詞2つを用いた文の構成の学習（平成30年4月～現在）

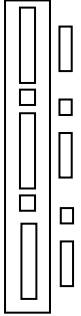
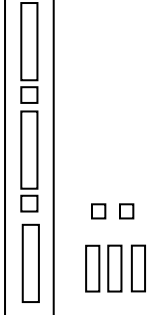
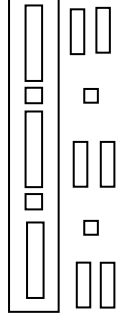
単語カード、助詞カード、助詞2つの文の文構成板、動作絵カードを用いて学習をおこなっている。
[で・を] 文は終了し、現在は [に・を] 文を学習している。

2. 本時の指導

（1）学習課題・ねらい・教材

学習課題	ねらい	教材
文の構成 （助詞2つ）	<ul style="list-style-type: none">● 動作絵カードの内容を理解して、文を言うことができる。● 動作絵カードを見て、助詞2つを用いて文の構成をすることができる	文構成板、動作絵カード、名詞カード、動詞カード、助詞カード に・を、書字用紙

(2) 展開

学習項目	学習内容	留意点
1. はじめの挨拶	対象者が「勉強、はじめます。」と言う。	指導者がすわる前に挨拶をしたら、座ってから、挨拶をするように促す。
<p>2. 文の構成</p> <p>【動作絵カードと同じ動作をおこなう。】</p> <p>【文の構成】</p> <p>1 試行目</p>  <p>2 試行目</p>  <p>3 試行目</p> 	<p>下記①～③の「～に～をあげる。」の文の構成をおこなう。</p> <p>①お母さんに花束をあげる。 ②〇〇さんに飴をあげる。 ③赤ちゃんにミルクをあげる。</p> <p>動作絵カードを呈示する。文を言う。 指導者が具体物を使って実際の動作をおこなう。 対象者も具体物を使って実際の動作をおこなう。</p> <p>1 試行目：上から順序よく、縦に同時呈示してから構成する。</p> <p>動作絵カードを呈示する。文を言う。 呈示した名詞カード、動詞カード、助詞カードを読む。 (その際には、動作絵カード上の絵を指さしして名詞カードとのマッチングをおこなう。動詞カードと身振りのマッチングをおこなう。) 文を構成する。構成した文を読む。</p> <p>対象者が文を書く。文を書いた後、助詞に赤丸をする。 対象者が書いた文を読む。</p> <p>2 試行目：順不同に、横に名詞カード、動詞カード、助詞カードを同時呈示してから構成する。</p> <p>動作絵カードを呈示する。文を言う。 指導者が動作絵カード上の絵を指さしして「だれ?」「なに?」「どうする?」を聞く。対象者が答える。再度文を言う。 呈示した名詞カード、動詞カード、助詞カードを読む。 文を構成する。構成した文を読む。</p> <p>3 試行目：名詞カード・動詞カードを2枚ずつ呈示する。正しいものを選択して構成する。</p> <p>動作絵カードを呈示する。文を言う。 呈示した名詞カード、動詞カード、助詞カードを読む。 文を構成する。構成した文を読む。</p> <p>対象者が文を書く。文を書いたあと、助詞に赤丸をする。 対象者が書いた文を読む。</p>	<p>動作絵カードを呈示した際にちらっとしか見ていないときは「よく見てね」と言う。</p> <p>指導者が実際の動作をおこなうときは、体の向きを変え対象をさして、【だれ】に向けているのかを強調する。</p> <p>【あげる】の濁音を強調して言う。</p> <p>動作絵カード上の絵をよく見ていないときは、対象者にも指さしを促す。身振りを見ていないときは再度身振りを見せる。</p> <p>書字の際、文構成板は机上に置いておく。</p> <p>書字にて間違えそうになったら、該当箇所を指さしして教える。</p>
3. 文の学習 「～に手をふる。」の文の復習 (全2種)	対象者が絵カード見て文を言う。文を書く。文を読む。 指導者が、実際の動作をおこなう。 対象者が、実際の動作をおこなう。	指導者が実際の動作をおこなうときは、体の向きを変え対象をさして、【だれ】に向けているのかを強調する。
4. おわりの挨拶	対象者が「勉強、終わります。」と言う。	

3. 研究協議

研究授業終了後、研究協議を行いました。

特別支援学校の先生方、障害者支援施設の支援員の方などの参加がありました。

研究協議は、(1) 授業者からの補足説明、(2) 質疑応答・感想、の順番で進めました。

(1) 授業者からの補足説明

- 名詞・動詞・文を、言ったり書いたりできたら終わりではなく、概念や意味の理解も学習できたかどうかという視点を持ちながら、複数のカードを使用したり実際の動作を行うなどしたりして学習を進めてきた。
- 文の構成の学習が進むにつれて、日常生活の場面においても、文で教えてと言ったり、自分のノートに文で書き留めたりといった様子が見られるようになってきた。
- 自ら周囲の人とのコミュニケーションを図ろうとしたり、うまく伝わらないときでもあきらめずに単語を複数挙げるなどして何とか伝えようとしたりする姿が見られるようになってきた。

(2) 質疑応答・感想

- 学校を卒業してから年月が経っていても「学びたい」という気持ちがあること、そして、いきいきと学習している様子に感激しました。
- 助詞のあとに一呼吸置き、ゆっくりと文節ごとに読むようにするとよいのではないのでしょうか。
- 書けたからできた、ではなく、本当に理解することができたかという視点を持ち続けているということが大事なのだなと思いました。

最後に宮城理事長から、「今後は、文の理解の学習に入ること。今はまだ不十分な部分があったとしても、文の理解の学習において、色々な文を読んで質問に答える学習をすすめることで理解していく。必要に応じて、絵カードや実際の動作を用いて意味理解を補いながら学習をすすめること。」という話がありました。

また、「ほんの少しの変化でも見逃さないで、その変化を子どもと保護者の方と一緒に喜べるということが大事です。」という話もあり、子どもと向かい合うときの大事な視点を改めて実感することができました。

次回の定例研究会は、6月15日(土)開催予定です。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。